



ISSN 0914-6768

第 73 号

平成15年12月1日
愛媛大学附属図書館

—— 目 次 ——

郷土資料の新たな形と未来 …………… 1	第1 開架閲覧室資料配置図 …………… 6
平成15年度大学図書館職員長期研修 ……… 2	ホームページから MAGAZINEPLUS ……… 7
The Soul of the University ワシントン大学図書館探訪記 …………… 4	愛媛大学記念文庫 …………… 8
農学部分館長論文賞受賞 …………… 5	愛媛大学附属図書館概要発行 …………… 8
本館2階第1 開架閲覧室リニューアル …… 5	図書館日誌（会議，研修） …………… 8

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

郷土資料の新たな形と未来

下 坂 憲 子

明暦元（1655）年，21歳で単身郷里を出奔した浪人が，やがて仮名草子で名を成し，仕官の末に親藩の家老へと大躍進を果たす。現代に置きかえてもあまり耳にしないようなサクセスストーリーであるが，近世初期，江嶋為信は文武両道に成功した希有な武士の一人であった。その為信を初代とし，以後代々家老職にあった今治江嶋家の諸文書が，愛媛大学附属図書館に寄託されたのが一昨年夏。このたび，附属図書館の一連の郷土資料電子化事業が国立大学図書館協議会賞に選ばれたことは，目録作成時など「江嶋家文書」の末端に携わることができた身としても，非常に感慨深い出来事であった。

早いもので，「江嶋家文書」に関わるようになって，今年で3年目になる。一年前は資料整理と目録作成，二年目は今治市との共同研究によるデジタルコンテンツ化，そして今回，これまでの活動が評価され，先の賞の栄冠に輝いた。その吉報を教えて頂いた折，私はそんな事業に参加できた自分の幸運を改めて実感し，そして「江嶋家文書」とこのプロジェクトはこれ以上ない良縁で結ばれていたのだと気付いた。なぜなら，私が修士論文のテー

マに江嶋為信を選んでほどなくして，江嶋家御子孫から郷土資料が附属図書館へ寄託されることが決定したからである。さらに大学院の講義を通して目録作成に参加し，また「江嶋家文書」CD-ROM化にあたり，資料編成にそのまま関わることが叶った時には，課題研究の一環とはいえ，伝記研究をする者のはいくれとして，これ以上恵まれた環境はないだろうと確信した。その意味で私は当時一生分の運を消耗したのではないかと今でも考えることがある。「江嶋家文書」は，御子孫の手によって戦火を免れながらも長らく郷里を遠く離れていたが，寄託資料となったことで愛媛の地を再び踏み，今治築城400周年を迎える今年，電子化という新たな可能性を秘めた郷土資料として生まれかわったのである。やはり今治藩と江嶋家の並ならぬ縁の賜物といえるだろう。

しかし当初は，「江嶋家文書」が郷土研究の枠を越えて活用される資料であるとは夢にも思わなかった。およそ170点の寄託資料は，分類・整理を終えると，今治藩の藩政資料，江嶋家関連の覚え書きのほか，武道関連資料，幕末の婚礼資料など年代，内容共に多岐にわ

たる資料であり、予想以上に分類項目が増える結果となった。内容面で特に目を引いたのは幕末の婚礼関連資料で、当日の料理の献立、手順の控、出席者名簿など家老職の武家の婚礼事情を示した貴重な文献がまとまった形で残されており、当時の習俗を垣間見るようで、女性としても興味深く感じたことを記憶している。一昨年末には、目録作成と並行して「総合的な学習の時間」での地域資料の教材開発を目的とした国語科家庭科合同のプロジェクト・婚礼料理の再現試食発表会が開催され、歴史学・国文学などというジャンルを超えて活用される地域資料の可能性と柔軟性を改めて認識するに至った。

明るく年の平成14年には、今治市との提携による「江嶋家文書」CD-ROM化にあたっての資料編集に参加する幸運を得た。自分の研究対象に直接関わる資料を手に出るという喜びと同時に、生涯学習や学校教育の教材として活用されるためにどのような資料提示が出来るか、常に自問する作業であった。江嶋為信は、文筆・出版の商業的発達が未成熟であった近世初期において、その時流にふさわしい柔軟な姿勢で文学的成功と共に社会的地位を獲得した、当時の愛媛を代表する人物として位置づけられる。しかしその一方で、現在、為信の存在は、一般的には甘藷をもたらした藩士としてその名が伝えられる程度で、認知度は必ずしも高くはない。為信に限らず、当時愛媛から発信されていた芳醇な文化は、意外にも地元での認知が低く、残念ながらその多くが埋没している現状にある。さらに愛媛の文化を研究する過程での実地調査では、年齢層によってもその認知度が大きく異なることに気づく。それは、高年齢層が身近に接してきた地域文化が、次世代に継承されていない事実を物語っている。その中であって、この「江嶋家文書」電子化は、特に活字離れ

が叫ばれて久しい若い世代には、分厚い地誌など多くの文献を追って探すよりも気軽に、手慣れた媒体で、普段目にする機会のない古文書の世界を見ることが可能となり、地域文化に興味を抱くきっかけにもなることが期待できよう。何より、劣化を危惧することなく、より多くの利用者の手に資料を提供出来るという点で、従来の環境とは大きく異なる。どうか、より多くの利用者の目に触れることを願ってやまない。

ところで、電子資料化した「江嶋家文書」には、トップページに二等身の家老姿の為信さんがいらっしゃる。もともと学校教育の場でも使用される意図で制作されたためであるが、各項目に進むたびに、家老自ら一つ一つ説明をしてくださる。失礼ながら、見ていて大変微笑ましい姿をしておられる。為信の実際の画像はなく、これが架空の姿であることはいままでもない。もしかするとしかつめらしい顔をした厳格な家老だったかも知れない。ともあれ、もし為信さんの愛らしさに一度でも目が止まったなら、その先に足ならぬマウスを進めてもらえると有難い。大げさな表現になるかもしれないが、私は、地域文化を知る最大の魅力というものは、それまで学校、地域活動などで学んできた日本の歴史の一端が、地元独自の形を伴って、そこに確かに息づいていることを肌で感じる点にあると考えている。実体というような手応えとは違いかも知れないが、電子化という新しい命を吹き込まれた為信さんと郷土資料にも、実は身近にある郷土の文化が変わらずに息づいている。

今後とも、電子図書館の活用を通して、愛媛の財産が新たに輝く瞬間が、多く訪れることをせつに願いつつ。
(しもさか のりこ NPO法人庚申庵倶楽部特別研修員)

平成15年度大学図書館職員長期研修報告

上山明子

7月7日から25日の間、3週間にわたって平成15年度大学図書館職員長期研修に参加させていただきました。この研修は毎年全国の大学図書館等の職員を対象に、「学術情報に関

する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館などの情報提供サービス体制を充実する」ために行われるものです。

今年度は文部科学省と筑波大学の共催でグループ討議、情報関連の施設の見学などと共に、次のような7つのテーマに沿って講義がありました。

1. 大学図書館の管理・運営
2. 大学改革と図書館
3. 電子図書館的機能の整備とその推進
4. 電子的資料の導入
5. 学術情報の流通
6. 多様化する情報サービス
7. 社会の変革と大学図書館

様々な講師の方々から、先進的な試みや、大学外の方からの提言などが盛り込まれた講義を受け、これからの大学図書館が向かっていく方向性について考えさせられました。

特に主に2.のテーマの中に含まれる来年度からの国立大学の法人化は今年度の大事件といえると思います。7月9日には前日に参議院文部科学委員会を通ったばかりの法案が講義の中で取り上げられ、その日の夕方参議院で成立とのニュースを耳にし、時代のなかで変わらざるを得ない・変わっていかねばいけない大学図書館を実感しました。

参加者の関心が高かったのもやはり法人化関係の話題でした。グループ討議のテーマの一つが「法人化後の大学図書館のあり方」でしたし、40名の参加者の内35名が国立機関に勤務していることもあり、大変切実な課題として受け止めていました。私立大学・公立大学から参加の方にとっても、国立大学すべてが一斉に法人となるのですから、影響はさげられません。また法人化の問題だけにとどまらず、18歳人口の減少の中で、図書館だけではなく大学全体が変革を迫られているという事を全員が認識しており、それぞれ立場は違いますが、ある種の危機感を持って研修に参加していたといえると思います。

大学への進学率が上がり、現在18歳世代の約50パーセント弱が大学へ進学しています。現在の大学に於ける教育の方法や、学習支援といったものは大学で学ぶことが一握りの超エリートのみだった時代に確立したものを受け継いでいると思われますが、これからは、全く新しい視点から学習・教育の支援の方法を見直さなければならない時代になってきます。

具体的には学生に対するサービスのさらな

る向上が必要だと思われませんが、高等学校までの教育機関とは違った、自学自習の場としての「大学」ならではの図書館サービスの方向を探る必要があります。単に希望を叶えるのではなく、しかしニーズに的確に応えながら、自発的な学習を促すような方向に行ければ理想的です。

勿論、教官の方々に対するサービスも、教育・研究の両面から、よりいっそうの拡充をはかる必要があるでしょう。

大学改革だけではなく、電子図書館機能の充実、学内で生産される学術情報をどう発信していくのか、電子ジャーナルも含めた学術雑誌の価格高騰化の問題など、課題は様々多岐にわたっています。

一人で全てのことはできませんが、今回の研修で得た知識や新しい発想を、できることから日々の仕事に生かせればと考えています。

また、他の参加者の方々と3週間共に学び、親睦を深めた事は本当に大きな財産となりました。研修後に立ち上げた参加者のメーリングリストは、図書館の仕事上特有のことにかぎらず色々な情報を交換できる、得難い場となっています。

最後になりましたが、文部科学省と筑波大学の関係者の方々に大変お世話になりました。また、講師の先生方にもこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

早く送り出して下さいました本学の皆様にも、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。また私事ではございますが、3週間もの留守をがんばって乗り切ってくれた子供達と夫にも、感謝をしたいと思います。

(うえやま ともこ 情報管理課図書情報係)



The Soul of the University —ワシントン大学図書館探訪記—

土 出 郁 子

ワシントン大学(University of Washington)は、創立以来140年以上の歴史を持つ大学で、アメリカ西海岸のカナダにほど近いシアトル・バセル・タコマの3カ所にキャンパスを構えています。

9月9,10日の日程で、前館長・柏谷先生ご夫妻、雑誌情報係主任平岡氏とともに、そのワシントン大学図書館(バセル校とシアトル本校)の見学に行ってきました。

9日に訪れたバセル校は、短大等を卒業した学生を受け入れ、修士課程を修了させる目的で1990年2月に設立された新しいキャンパスです。図書館も明るくきれいで、1階にカウンターと52台の端末スペース、2階にメディアセンター、3階に開架図書と読書室が配置されています。メディアセンターにはビデオやDVDなどが4,000タイトル近くありますが、最近特にDVDの数が増加傾向にあるそうです。様々なメディアの編集や、資料・ポスター作成のための設備を持った部屋もありました。3階の読書室は短い渡り廊下を経たところがあり、全面ガラス張りになっています。大学自体が丘の上にあるので、読書室からの眺めは小さな森を見下ろすよう。22時まで開いているため、研究者が会議を開くこともよくあるそうです。

10日にはシアトル本校を訪ねました。キャンパス内には本館と学部学生用図書館及び16の主題別図書館があります。本館はSuzzalloと呼ばれていますが、これは「the Soul of the Universityである図書館を建設する」といった当時の学長Henry Suzzalloに由来しているそうです。最も古い1926年当時の部分は礼拝堂のような形で、長机と椅子が並んでいます。歴史のある建造物に特有の一種荘厳な雰囲気の中で、学生たちが熱心に勉強していたのが印象的でした。Suzzalloには主に人文・社会学系の製本雑誌が所蔵されています。カレントは約5,000タイトルということです。

学部図書館(Odegaard Undergraduate Library)は学部学生(Undergraduate)のための図書館で、24時間開館しています。各大学内図書館間・

キャンパス間で相互貸借が行われていますが、学部図書館の図書約18万冊は完全に学生専用となっています。メディアセンターやグループ学習室、レファレンスコーナーなどが設けられ、英語を第2言語とする学生向けの資料も揃っていて利用が多いそうです。学生はワイヤレスカードを持ち、自分のパソコンから自由に図書館サービスにアクセスできます。

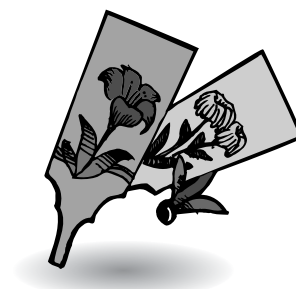
10日の午前中に、日本研究の教授Linda Salomon氏、東アジア図書館司書の横田氏からお話を伺ったのですが、大学図書館は独自の予算を持ち、司書が教員や院生の研究に対して、選書を中心としたサポートを行うのだそうです。また司書は各自専門の研究分野を受け持ち、研究法や情報検索法などについて常に学生が相談できる体制を整えていました。まさに図書館の存在が今なおthe Soul of the Universityなのだと強く感じました。事情や体制に大きな差はありますが、日本の大学図書館もそうありたいと思います。

最後になりましたが、貴重な機会を与えてくださり旅行中にも公私に亘ってお世話になりました柏谷先生、私たちを温かく迎えて図書館を案内して下さったワシントン大学図書館司書の皆様、バセルキャンパスを案内して下さった理工学研究科の柏木さん及び今回の旅行にあたってお世話になりました全ての方に、心よりお礼を申し上げます。

ワシントン大学図書館のHP

URL : <http://www.lib.washington.edu/>

(つちで いくこ 情報サービス課医学部分館情報サービス係)



農学部分館長がアメリカ農業工学会論文賞を受賞

附属図書館農学部分館長 安部武美教授が農学部鶴崎孝教授、連合農学研究科スネート・モンプラニートさんとともにアメリカ農業工学会（A S A E）年次大会において2003年度論文賞を受賞されました。

論文の内容は「遠赤外線ヒータによる農産物の乾燥特性、品質評価」に関する研究です。

（写真 平成15年7月30日 アメリカ合衆国ラスベガス市授賞式にて）

おめでとうございます



本館 2 階第 1 開架閲覧室リニューアル

1) 閲覧書架の更新

- ・書架をすべて新しいものに入れ替えました。新しい書架は、1階と同じ木製側板付きの単柱式書架で、使いやすだけでなく、デザイン性の点でも優れたものになりました。
- ・書架を南北方向（南から差し込む光に沿った方向）に並べ、通路も直線になるよう整列しました。
- ・これまで東側中ほどに分離して設置していた書架を北側に移動し、一つの書架群としてまとめました。東側中ほどの窓のあるエリアは、明るく開放的な学習スペースとなりました。
- ・書架が統合されたことで、資料の並びが単純化され、分かりやすく使いやすくなりました。図書は、東側から順に分類番号（図書ラベル）順に並べられています。洋書は西側に配置されています。

2) 個人用閲覧機を設置

- ・東側中ほどの窓のあるエリアに、落ち着いて周りを気にすることなく学習ができるよう個人用閲覧機を16台設置しました。なお、1階参考図書室にも10台、第2、第3開架閲覧室にもそれぞれ8台設置しています。

3) 文庫本コーナーを2階ロビーに移設

- ・これまで閲覧室の奥にあった文庫本コーナーを、2階ロビーの西側に移設しました。階段を上ったすぐの所にありますので、これまでと比べて格段に使いやすくなりました。

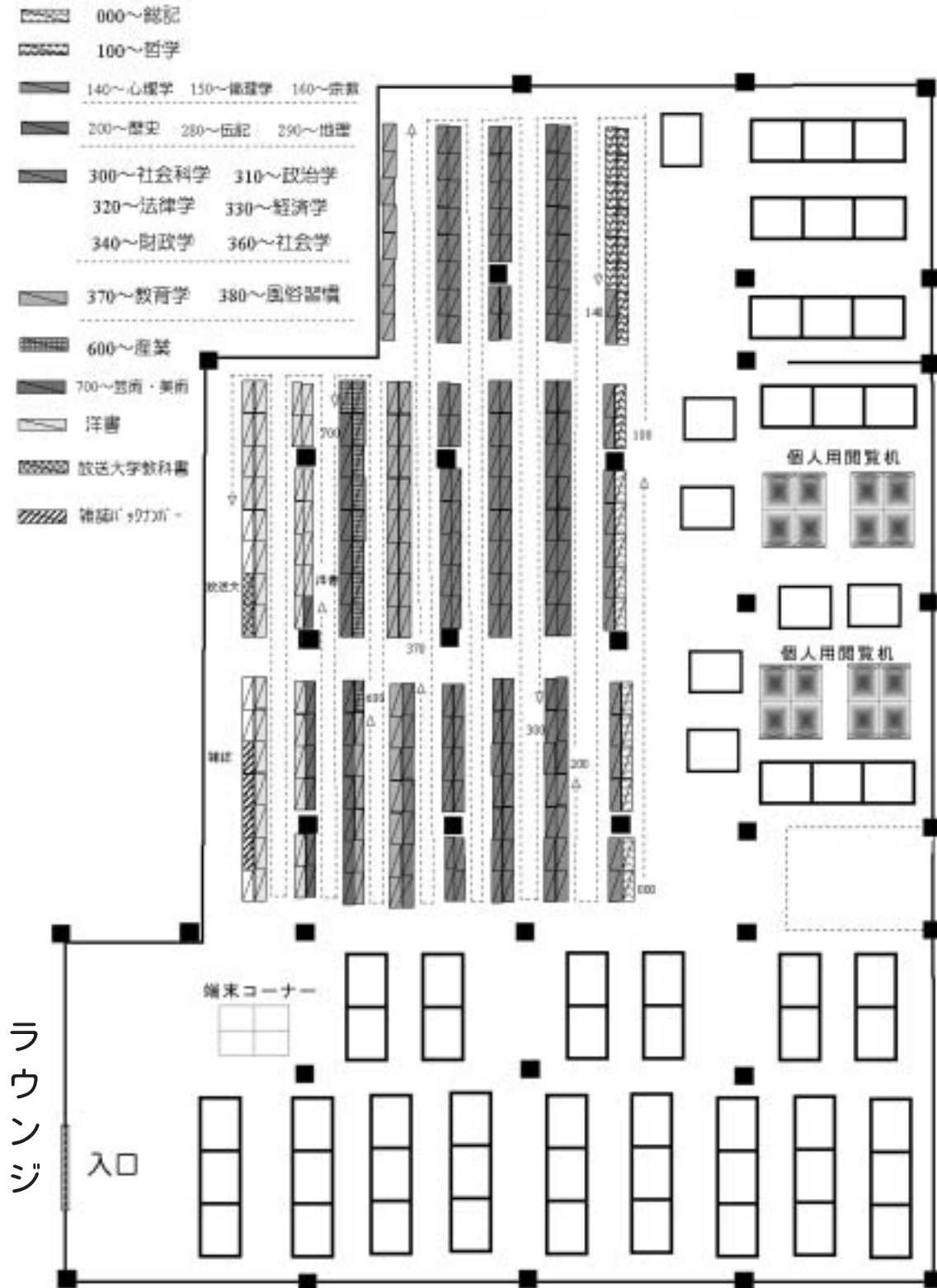


リニューアルした第一開架閲覧室



個人用閲覧機を設置しました

第1開架閲覧室 資料配置図



ホームページから

MAGAZINEPLUS

国内最大670万件の雑誌・論文情報
雑誌記事索引を補完するレファレンスツール

「MAGAZINEPLUS」は625万件の雑誌記事情報に加え、戦後国内の学術雑誌が刊行した人文社会系の年次研究報告や学術論文集8,000冊、45万件の論文タイトル情報を加えた、総計670万件にのぼる国内最大の雑誌・論文情報データベースです。

* 附属図書館ホームページ「学術情報 DB 検索」からご利用ください。

検索できるデータ

国立国会図書館・雑誌記事索引 (1975-)
記念論文集 (1945-1998)
一般論文集 (1945-1998)
シンポジウム・講演集 (1945-1998)
学会年報・研究報告 (1945-1995)
一般誌・総合誌・ビジネス誌 (1981-)
海外産業・企業誌紙 (1984-最新)
国内 経済専門・業界誌 (1981-1995)

採録誌・採録論文集一覧

<http://www.nichigai.co.jp/database/mgz/top.html>
からご覧いただけます。

検索画面 (附属図書館ホームページ「MAGAZINEPLUS」をクリックするとこの画面になります。)

検索は、「キーワード」・「著者名」・「雑誌名」・「出版社名」からできます。検索の方法については、上記画面の右上の「HELP」をクリックして参照してください。使い方などわからないことがありましたら、係員までお気軽にお尋ねください。

なお、「愛媛大学総合情報処理センター広報第10号」の「情報教育と電子資料—『探すツール』を使いこなす」もご参照ください。
(<http://efs.dpc.ehime-u.ac.jp/Old/KOUHOU10/yamada.html>)

愛媛大学記念文庫 (第一開架閲覧室)

平成14年度に下記の先生方から著書をご寄贈いただきました。(順不同, 敬称略)

寄贈者	書名	編著者	出版者	出版年
金澤 彰	句集桜三里	金澤 彰	金澤 彰	2002
寺谷 亮二	都市の形成と階層分化	寺谷 亮二	古今書院	2002
鈴木 加人	独占及び取引規制の研究	鈴木 加人	成文堂	2002
藤田 正幸	多文化時代の研究と教育	藤田 正幸	青葉図書	2002
井藤 正信	ドイツ科学的管理発達史論	井藤 正信	東京経済情報出版	2002
川岡 勉	室町幕府と守護権力	川岡 勉	吉川弘文館	2002

愛媛大学附属図書館概要 2003/2004

前回発行の2002/2003と大幅な内容の変化はありませんが、統計の更新を中心に、表紙や色刷りもリフレッシュしております。また、図書館ホームページにあわせて掲載しております。



図書館日誌 (会議, 研修)

7月10日	第3回農学部分館運営委員会	8月5日	第1回附属図書館将来計画委員会
7月14日	第4回農学部分館運営委員会 ～16日	8月6日	第2回図書収集事務委員会
7月18日	平成15年度第1回デジタルコンテンツ研究会	8月21日	第4回医学部図書・情報委員会
7月24日	平成15年度愛媛地区大学図書館協議会総会 (松山大学)	8月27日	図書館職員著作権実務講習会(岡山大学)神野係員出席
7月25日	第2回中国四国地区研究集会運営委員会 (松山大学)	9月5日	法人化後の ILL 複写料金決済処理に関する地区説明会(広島大学)情報サービス課長, 池内係員, 福居係員出席
8月4日	建物 WG	9月26日	第2回附属図書館将来計画委員会
		10月3日	NII 大学図書館関連事業説明会(キャンパスプラザ京都)米田係員出席
		10月8日	第5回農学部分館運営委員会
		10月9日	中国四国地区大学図書館協議会実務者会議(徳島大学)専門員出席
		10月16日	大学評価・学位授与機構分野別教育評価「農学系」における訪問調査
		10月23日	第44回中国四国地区大学図書館研究集会(松山大学)仙波システム管理係長, 筒井係員, 福居係員, 米田係員出席
		10月27日	法人化対応 WG 財務班打合せ
		10月29日	法人化対応 WGILL 班打合せ
		10月30日	監査法人との打合せ